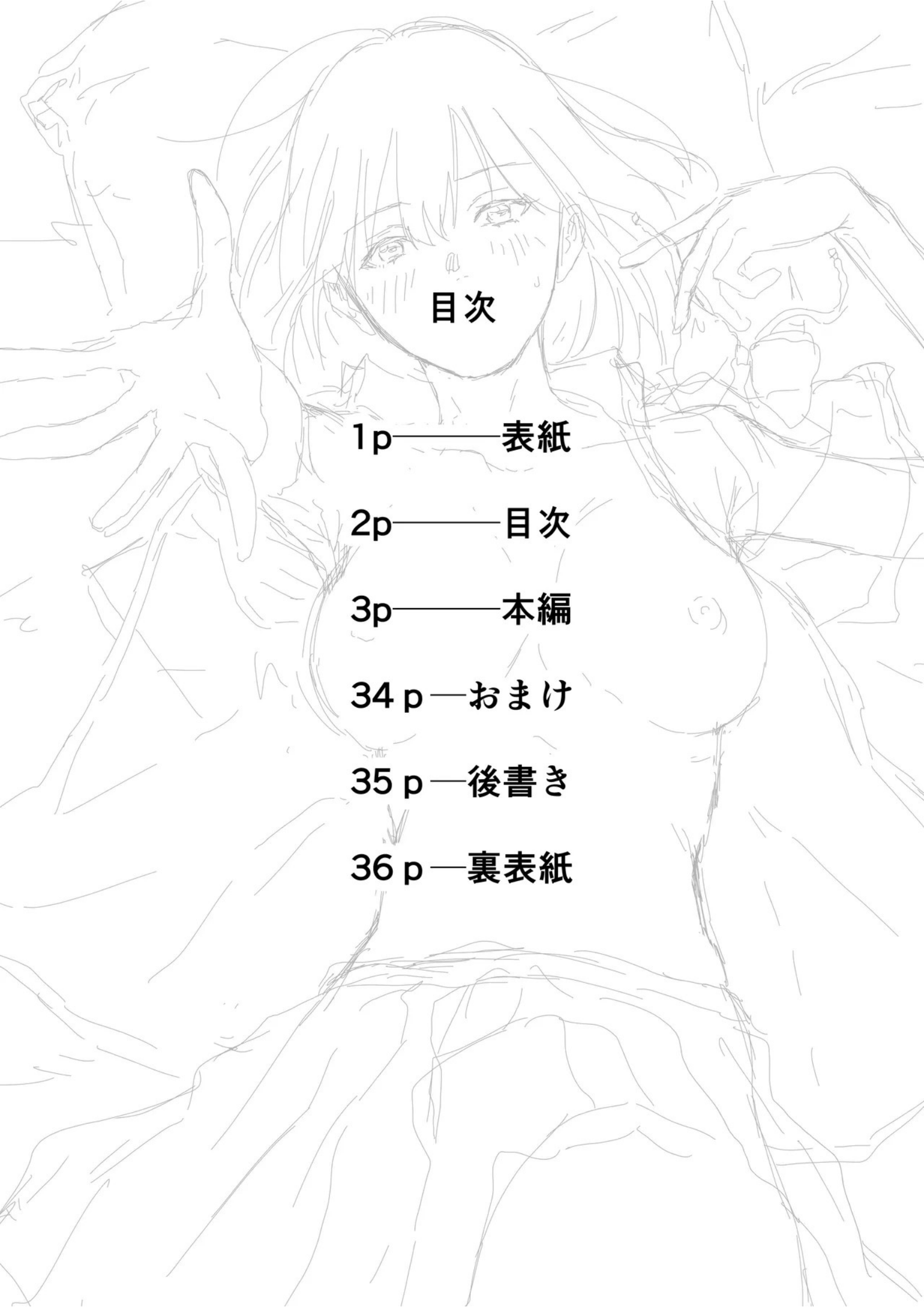




オタクの女友達と
一線越えた話

漫画31p



目次

1p——表紙

2p——目次

3p——本編

34 p—おまけ

35 p—後書き

36 p—裏表紙



大学が暇なので
(あとお金がない)

エロ同人を
描くことに
しました



が

上手くネタが
浮かばないので

7年前の
思い出を
描きます



当時の私は思春期
特有の拗らせで

異性と上手く
話せなくなっ
ていました



それだけで
なく



通りすぎる
幸せそうな

同世代の
人達に対して



佐藤

コンプレックス
を抱いて
いました

私の家
通り過ぎてる

え？
ゴメン

しかし、1人だけ
喋れる女の子が
いました







その子は

宮田さん(仮)
と言います

どう
した

4月



僕が教室で
1人ラノベを
読んでいたら



話しかけて
くれました

それから



それでも
私の
コンプレックス
がなくなっただけ



宮田さん
のことを

異性として

意識したことが
なかった
から



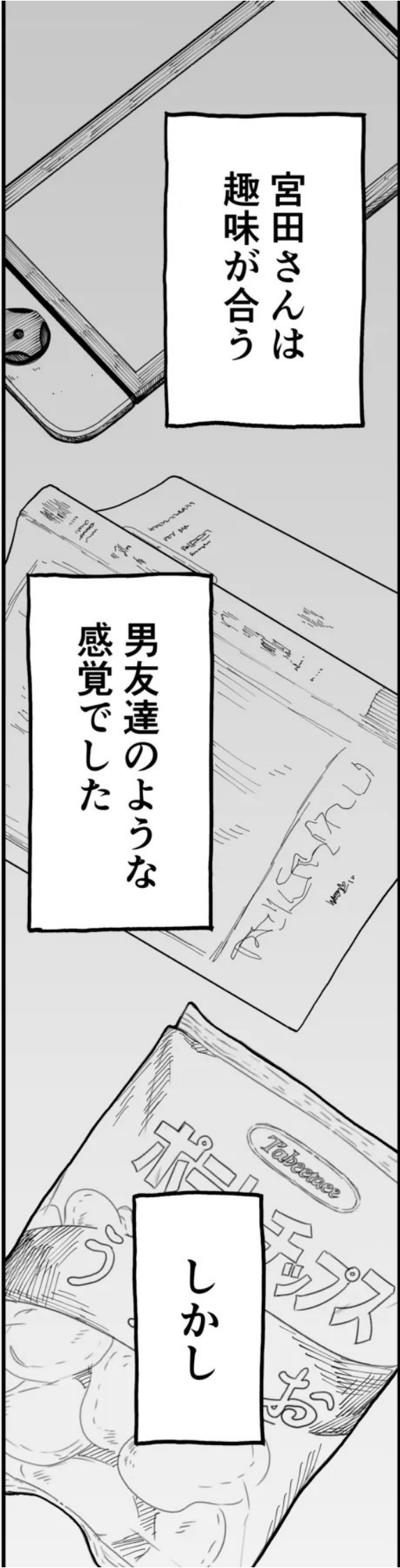
当時の私にとって
異性とは

自分とは違う生き物で
理解不能な存在

という
イメージでした



7月の終業式の日
その認識に変化が
訪れました



宮田さんは
趣味が合う

男友達のような
感覚でした

しかし

その日も
彼女の部屋で
漫画を読ん
で
いました



うわー
エロッ

ラブコメは
やっぱハーレム
だよな

…ねえ









胸が

当たって
いました



シャンプーと
制汗剤

それと

少し汗の
混じった
いい匂いがして

私は次のように
思いました

「俺とは違う…」



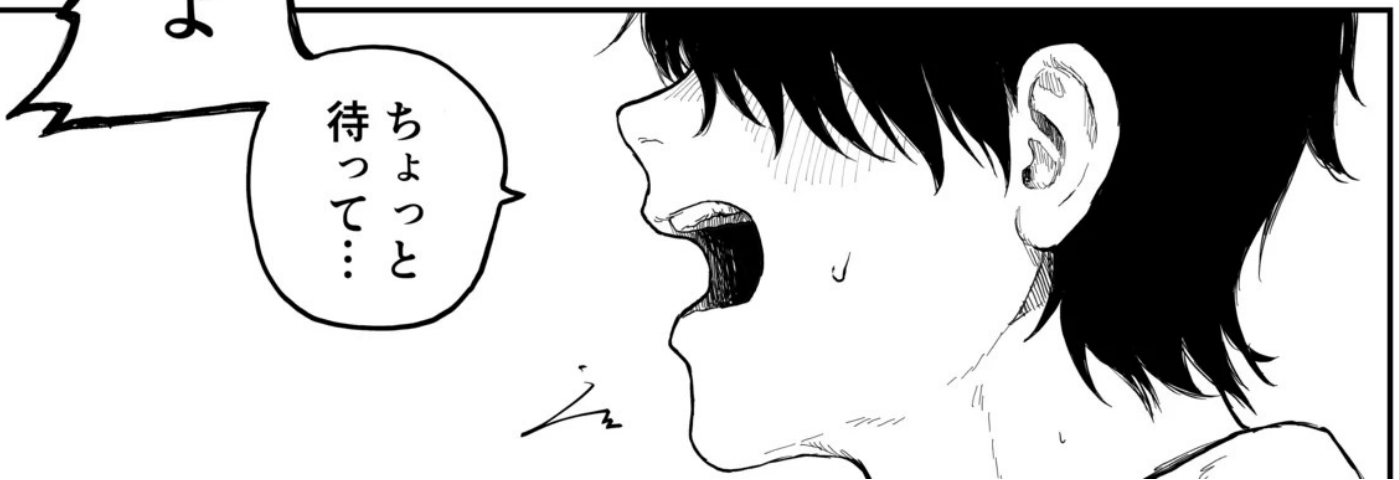
「あ」

「まずい」

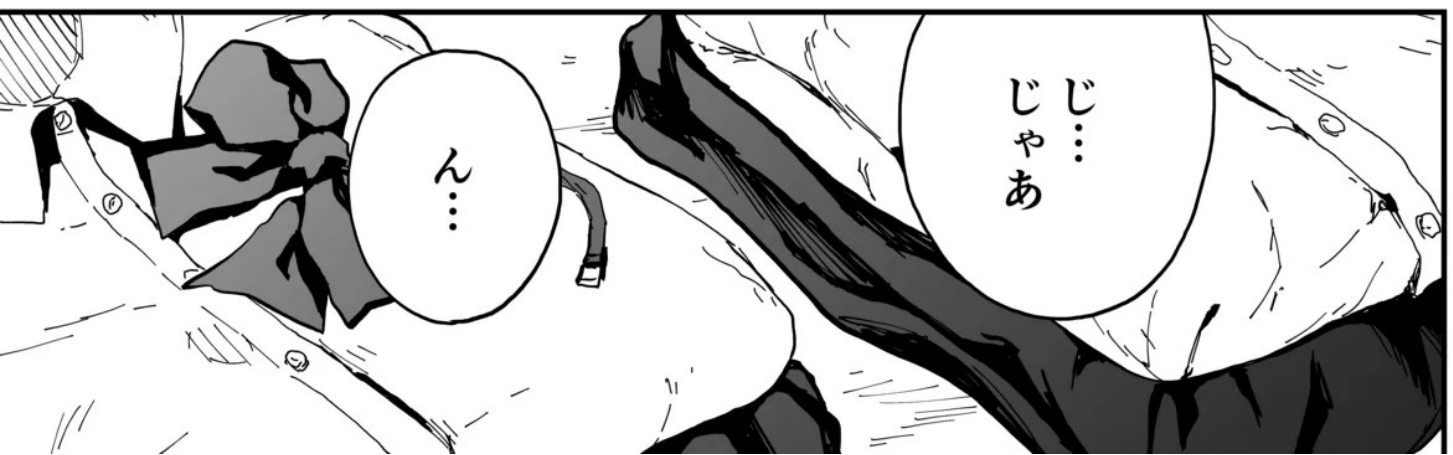


今日 家
誰も いない
から









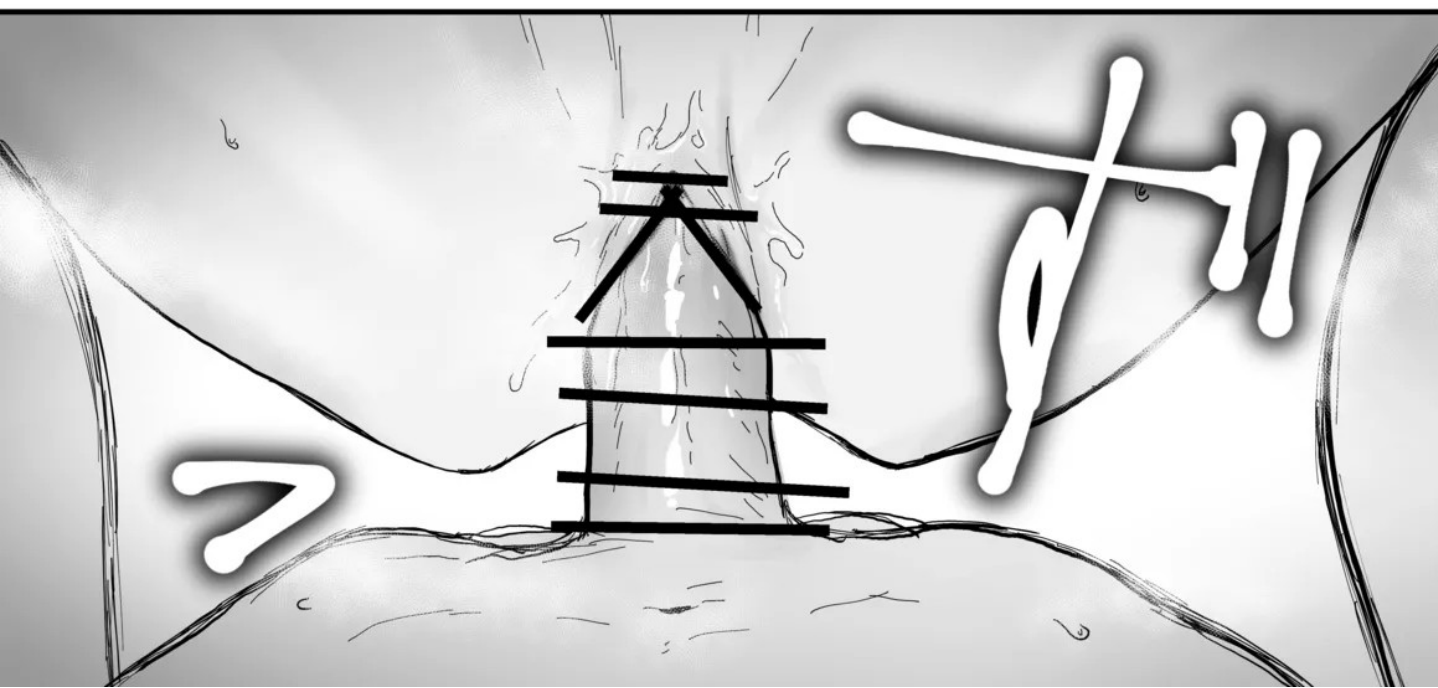










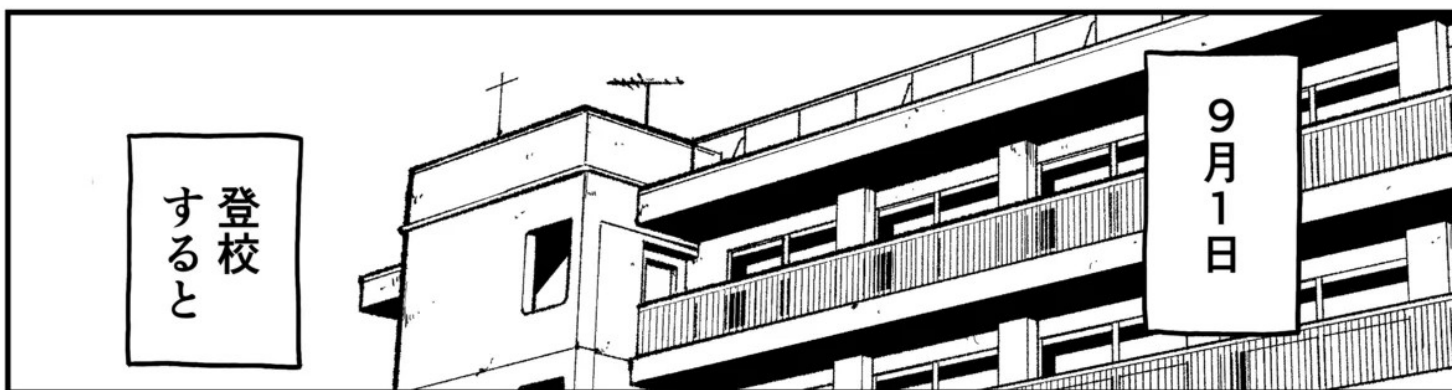








その日が
宮田さんと会った
最後の日でした



9月1日

登校
すると



宮田さんは
転校して
いました

連絡先くらい
聞いておけばよかった

入道雲を見ると
今でもそう思っ
て
しまいます



おまけ 私服

冬

夏



あとがき

ご購入いただきありがとうございます。

Twitterで同人誌描いたら売れると言われたので描きました。絵の練習にもなって一石二鳥かも…と。
しかしそのせいで描き方が定まらず
絵柄があまりにも不安定になってしまいました。

話は、最近モキュメンタリー風の映画やドラマが流行っている
ので、そういうのを漫画でやったら面白いのではないか
かと思いいこのような形になったのですが、面白さや
実用性には全く繋がっていない気がします。

また、描けば描くほどに人体(骨格、筋肉、脂肪、それらの性差)
への解像度の荒さを認めることになり、不甲斐ないです。

描き始めたとツイートしてから完成まで半年以上
かかってしまい、その点も申し訳なかったです。

拙作にお金を出してくださった方には頭が上がりません。
本当にありがとうございました。

散文的マジョリティ
X(旧Twitter)ID→@sanbun_majo

